

障がい者の人権 「まち」から「心」からバリアをなくそう

ある日の出来事  
「スーパーの駐車場で」

車イスを使うまちこさんは、自動車の運転免許を持っていて、おでかけ好きのお姉さん。今日は手づくり料理をふるまってくれるというので、私も買い物を手伝うことにした。行き先は、私もよく行くスーパーマーケット。2台分ある障がい者用駐車場に止めようとすると、なんと両方とも駐車中！

しばらく待っているうちに、一人の男性が走ってきた。「ごめん、ごめん。ちょっと急いでたもんで。」  
「よくあることなのよ。でも、これで駐車できるね。」とまちこさん。

つづいて車を降りたまちこさんの前に現れたのは、スロープの登り口をふさぐ自転車の群れ。それを1台ずつ動かしながら、つづつ考えた。いつも利用しているのに、私も全然気付いていなかった！障がい者用の駐車場やスロープがあっても、それを使いやすくするのも使いにくくするもの、人なんだなあ。

考えてみましょう。

障がいのある人もない人も、社会の一員として、お互いに尊重し、ともに生きる社会こそ当たり前の社会であるという考え方を「ノーマライゼーション」といいます。

この理念を実現するには、障がいのある人の日常生活や社会生活から、取り除かなければならない、様々な障壁（バリア）があります。

エレベータの不備など「目に見えるバリア」だけでなく、障がい者用駐車スペースへの駐車や点字ブロック上への駐車といった理解のない行動や障がいのある人に対する誤解や偏見といった「目に見えないバリア」があります。

障がいのある人もない人も、いきいきと「ともに生きる」社会づくりを進めるため、「まち」から、そしてみんなの「心」からバリアをなくすことが必要ではないでしょうか。

障がいや障がいのある人への正しい理解に向けて

生まれたときから障がいのある人、病気や事故で障害になる人等、その状況は様々です。障がいのある人が感じている不便さや必要な支援は、障がいの特性や状態によって一人ひとり違うことも理解する必要があります。

障がいの理解

- 障がいは誰にでも生じる身近なもの
- 身体障がいの半数は18〜64歳の間の病気や事故が原因
- 外見では分からない障がいもある
- 聴覚障がいや心臓、腎臓等の内部障がい
- 精神障がいや自閉症等の発達障がい等
- 障がいは多種多様で、一律ではない
- 障がいの程度による違い
- 障がいが生じた時期による違い
- 不自由ではあるが、周囲の理解や配慮があればできることが多い
- 地域での自立した生活、就業等

（熊本県人権センター「くらしと人権」より）

益城町教育委員会

ゆめ町の地名歴史 歴史の変遷と地名

先生の雅号、澹菴は「緩い穏やかな水の流れに臨む粗末な家」の意味に取れます。馬水の鉄砂川は普段は雅号に相応しい川魚が住む穏やかな清流でした。今では想像もできません。

澹菴は容貌魁偉、服装に無頓着で、逸話に事欠かない人です。

では肥後先哲偉蹟後編から一 時習館講規則の中では落書きを禁じます、ある未明新調した襖に昇り龍降り龍を描き知らぬ顔で寝てしましました。舎監が朝発見してその見事さに一驚しその誰かを察しましたが、厳罰に値するがこの才能を潰すのは惜しいと不問に付しました。この時わずか七歳でした。その腕白ぶりと才能を示す逸話です。

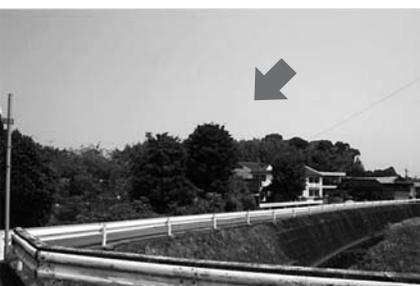
二 澹菴は書画の他に彫刻に秀で例えば孔雀の彫刻など羽毛まで見事で、福田太華は自分の絵筆が澹菴の彫刻刀の様な天下に恐いものはないと言ったそうです。細川藩主はその見事な彫刻を幕府に献納しようとして製作を命じましたが、澹菴はこれを潔しとせず不肖は武人にして彫刻師ではない

と遂にこの命令を辞退し、以後終生彫刻刀を執らなかつたとされます。武士の誇りです。

三 馬水村の西尾という村人がある日澹菴の住まいを訪れ、現在南（飯野村土山）の方に水野頼山があり、お二人の書を得て家宝にしたいので書を依頼した。澹菴は快諾し書を与えたが数ヶ月後、二人の書の表装が出来たので見に来て欲しいと招待されて見た処、わたしよりも頼山の書が優れている。もう一度書き直すとして後日再揮毫して与えたという。その書幅は今もあり二人の書は見事なものである。

四 先生は天稟聡明で多能、名利に淡泊の君子とされます。益城町文化財を訪ねる会

会長 松野國策



澹菴の住まいは矢印付近にあったと思われる（貝根橋から上流を望む）